

株主説明資料

2017年1月27日

株式会社カイカ

(2017年2月1日付けで株式会社SJIから株式会社カイカへ商号変更)

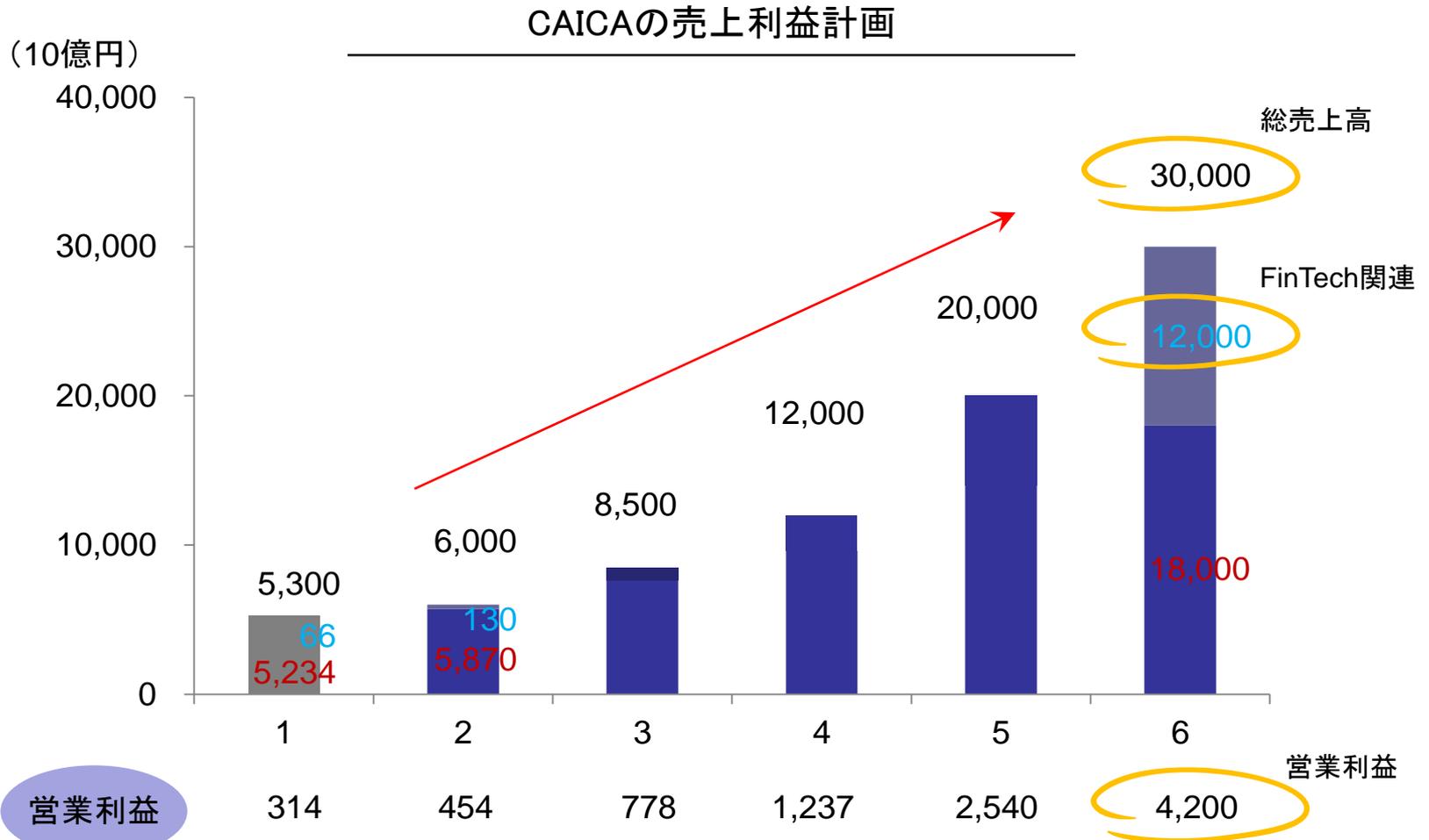


Copyright(c) 2017 by CAICA Ltd.

No part of this publication may be reproduced, stored in retrieval system or transmitted in any means --- electronic, mechanical, photocopying, recording and otherwise --- without permission of CAICA Ltd.
This document provides an outline of a presentation and is incomplete without accompanying oral commentary and discussion.

事業計画

2021年度に売上300億円 (FinTech関連は120億円)、営業利益42億円を達成する

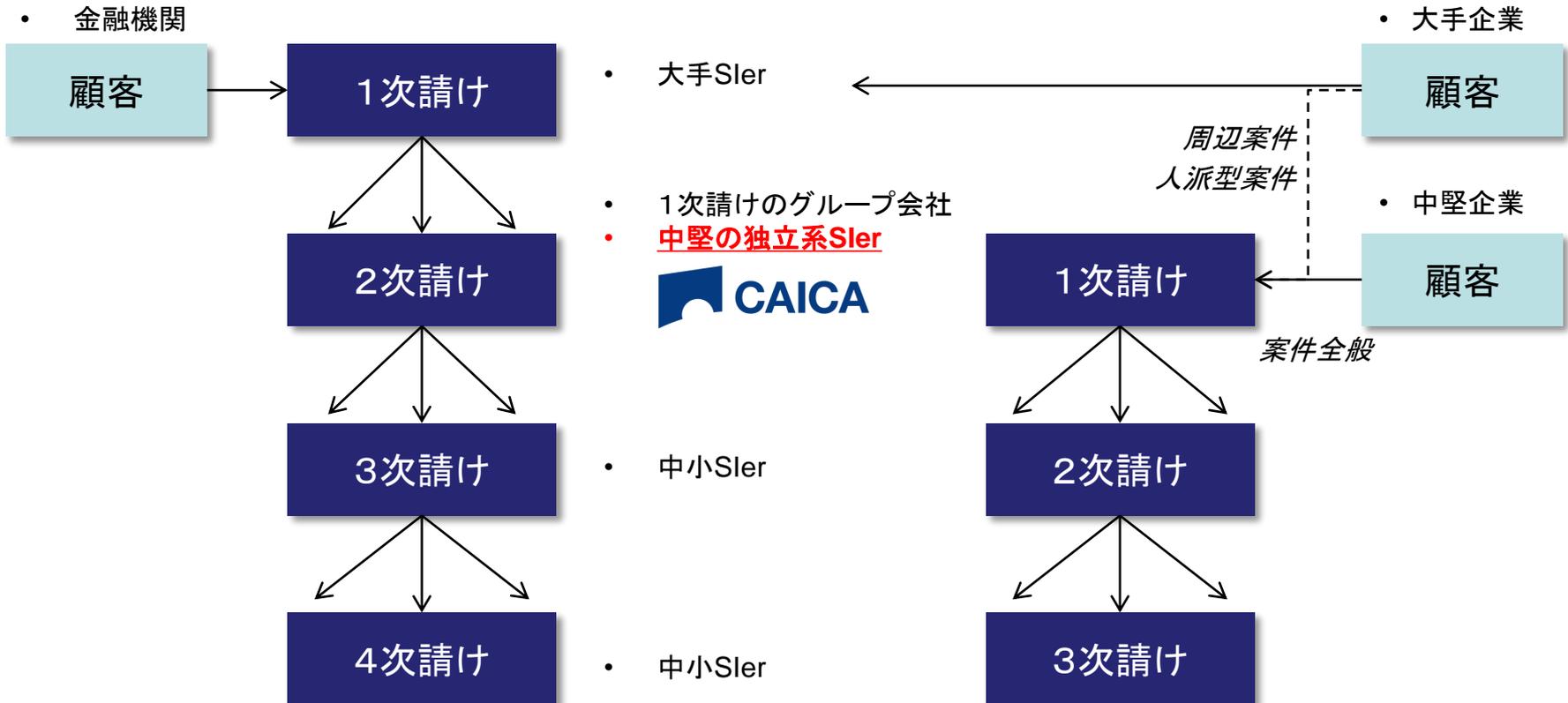


営業利益

システム開発会社の多重請負構造

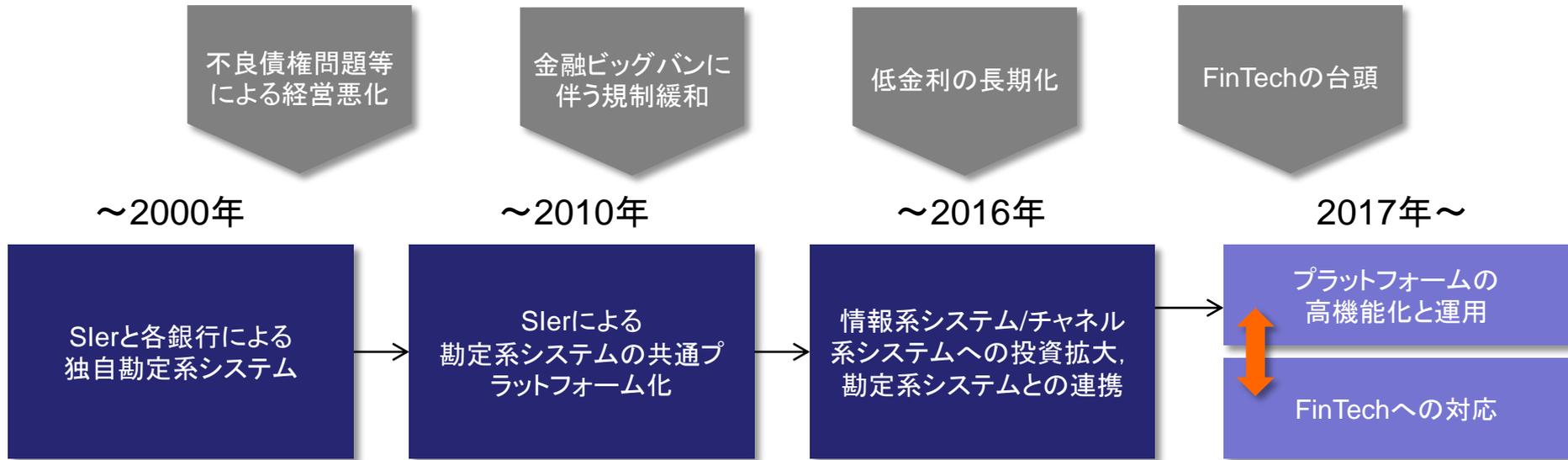
金融機関や大手企業の基幹システムは大手Slerが主に受注しており、CAICAにとっては以下が重要

- 大手Slerからの基幹案件の獲得
- 大手企業の周辺案件の直接獲得
- 中堅企業からは案件全般の直接獲得



銀行における基幹系システムの変遷と今後

今後もプラットフォームの高機能化と運用が続く一方で、各行はFinTech投資への対応が迫られている



勘定系業務(預金・為替・融資)が銀行の収益基盤であり、それを支える高度な勘定系システムを各行が独自に開発。システムの維持運用も含め、国内の大手Slerが、この役割を担ってきた。

不良債権処理などにより体力が低下した銀行にとって、新たな収益を産み難い勘定系システムへの巨額投資が見合わなくなった。勘定系は各行共通の要件が比較的多く、Slerがこぞって共通プラットフォーム化を提案、顧客基盤が比較的小さい地銀などがこの流れに乗る。

収益源が勘定系以外にも多様化(証券/保険商品の窓口販売、各種住宅ローン商品 etc.)し、顧客情報の活用など、情報系の重要性が増す。顧客接点も、従来の営業店からインターネットやコールセンター中心に移行し、情報系システムとともにチャネル系システムと、勘定系システムとの連携ニーズが拡大する。

FinTechなどの活用による独自サービスの創出や、クラウド化やオムニチャネルの促進によるサービスの高度化が期待される。また、24時間365日決済対応や、メガバンクを中心としたグローバル対応、地銀再編ニーズなど、各基幹系システムの高機能化が進む。

銀行における基幹系システムの変遷と今後

今後もプラットフォームの高機能化と運用が続く一方で、各行はFinTech投資への対応が迫られている

2017年～

プラットフォームの高機能化と運用



Fintechへの対応

- 当社の対応

特注指定解除による急速な信用回復の流れに乗って、大手Sierにおけるコアなパートナーとしての事業推進

具体的には、基幹系である勘定系システム、情報系システム、チャネル系システムの開発を継続的に対応し、信用と実績を積み上げる。

新規案件を受注し、新規顧客を含め、Sierとの新たな取引を拡大する。

- ・24時間365日決済対応
- ・地銀再編
- ・制度変更対応
- ・オムニチャネル化、ビッグデータ活用

- 当社の対応

当社の強みである、納期遵守/高品質/きめ細やかなマネージメントが必要となる高度な日本の金融システム開発実績と、Fintechにおける取り組み実績を組み合わせることにより、競合他社に無い付加価値をSierに訴求、特別なパートナーとして取引を拡大させる。また、FinTechにおける先駆者としてのポジションを確立する。

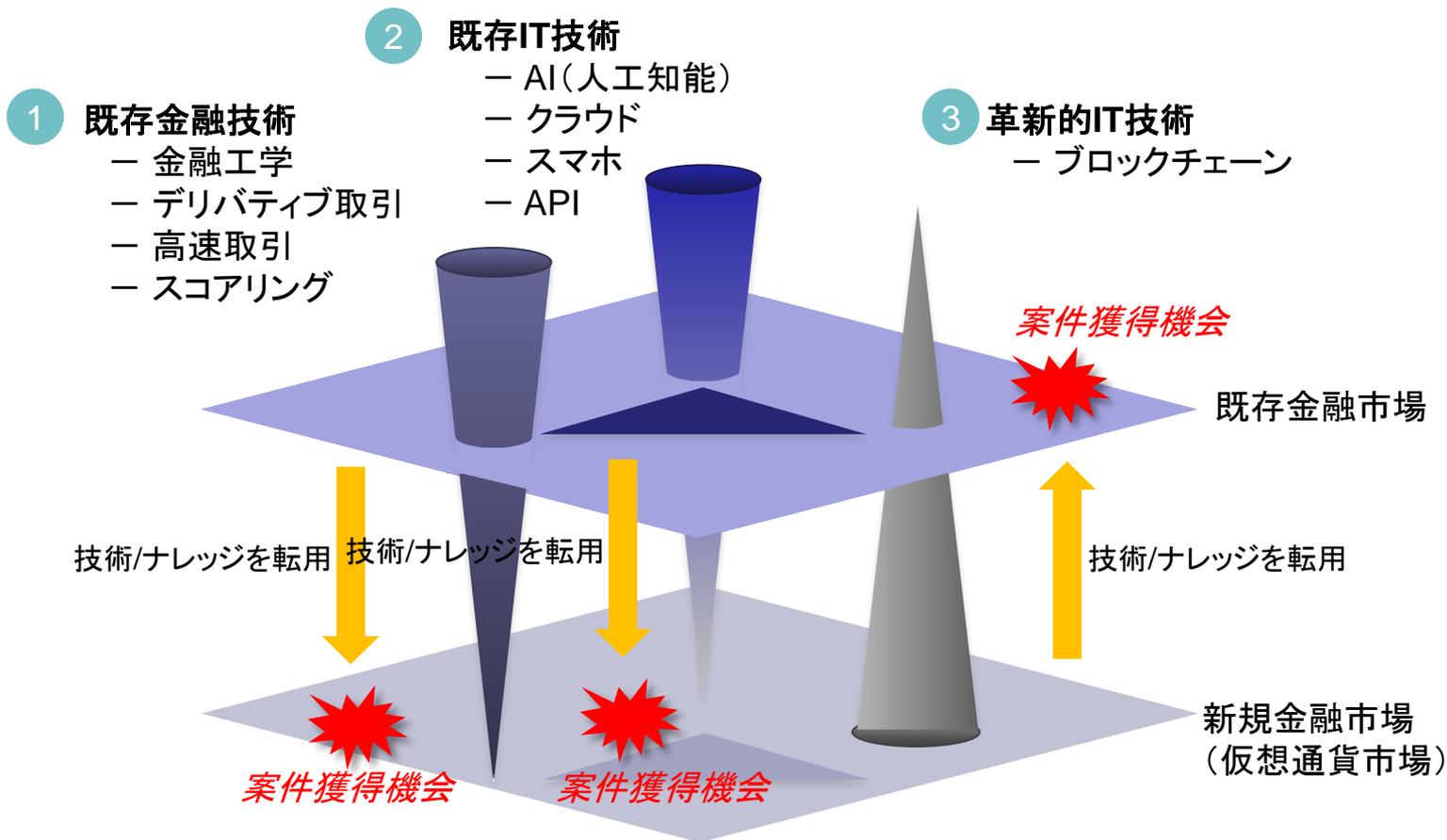
- ・ビットコイン決済など仮想通貨に関するシステムインテグレーション
- ・ブロックチェーン実装サービス
- ・AIのシステム適用
- ・FinTechを活用したソリューション創出

金融市場の構造変化

既存金融市場と新規金融市場の双方向間で技術流入が起こる

この際のシステムインプリメンテーションが当社にとっての収益機会となる

フィンテック市場の技術流入のコンセプト図



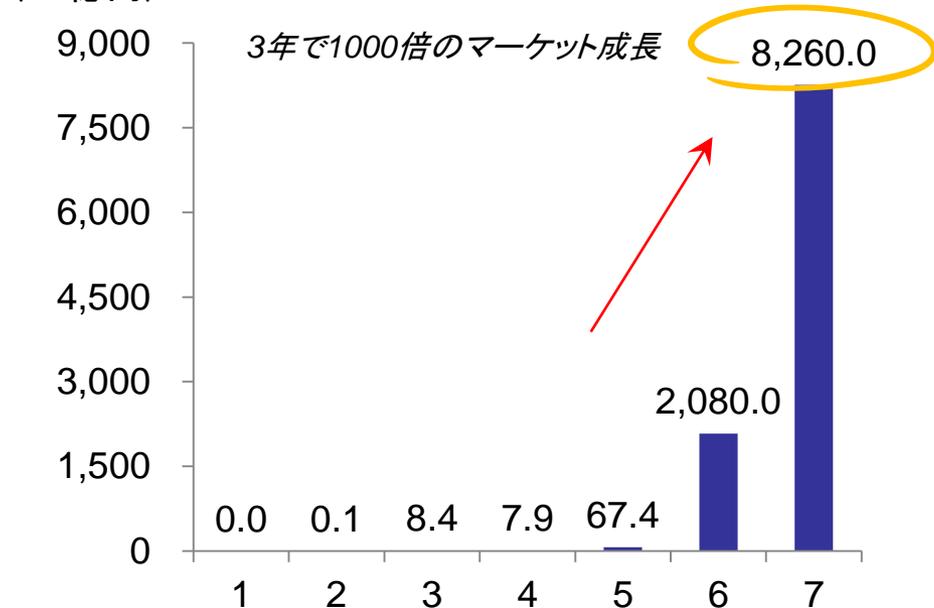
仮想通貨取引市場のマーケット展望

ビットコイン取引高は、2016年は2兆800億円(3,780万BTC)、2017年には8兆2600億円(1億5000万BTC)に達すると予測される

取引上位の取引所(bitFlyer、BTCボックス、QUOINE、Zaif)には外部資本が入り、成長を加速

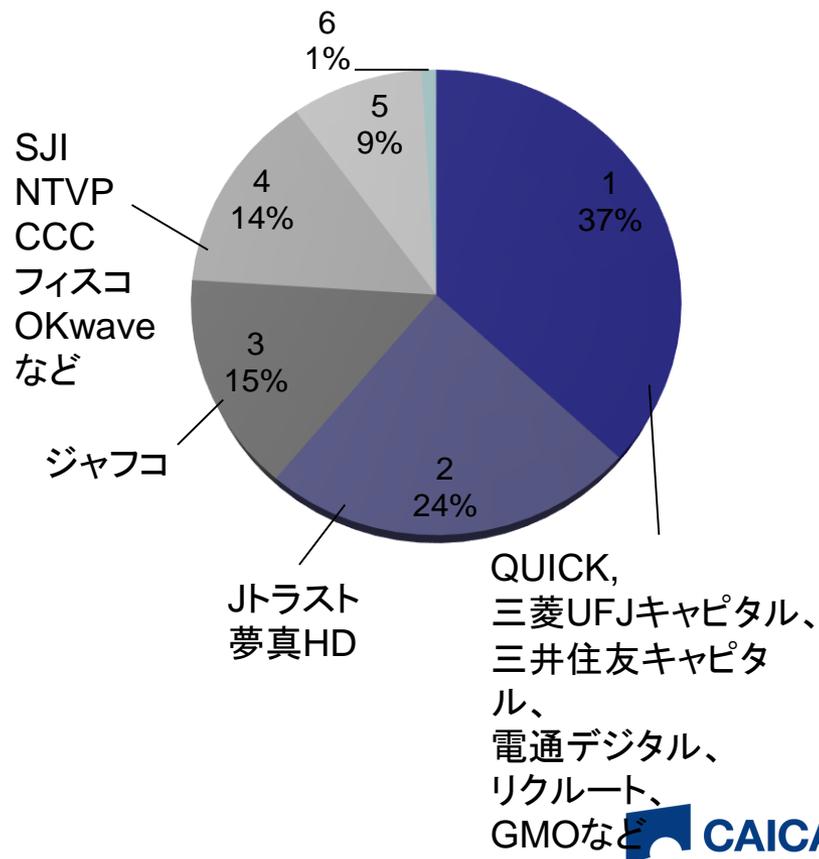
国内仮想通貨取引高の推移予測

(10億円)



取引枚数
(万BTC)

年	取引枚数 (万BTC)
1	0.0
2	11
3	43
4	13
5	172
6	3,780
7	15,000



仮想通貨のシステムインテグレーター

仮想通貨に関する取引所システム、デリバティブシステム、決済システムの開発をフィスコグループを通じて推進することでノウハウを蓄積すると同時に一般の市場展開を図る



フィスコ仮想通貨取引所メイン取引画面(スマホ)

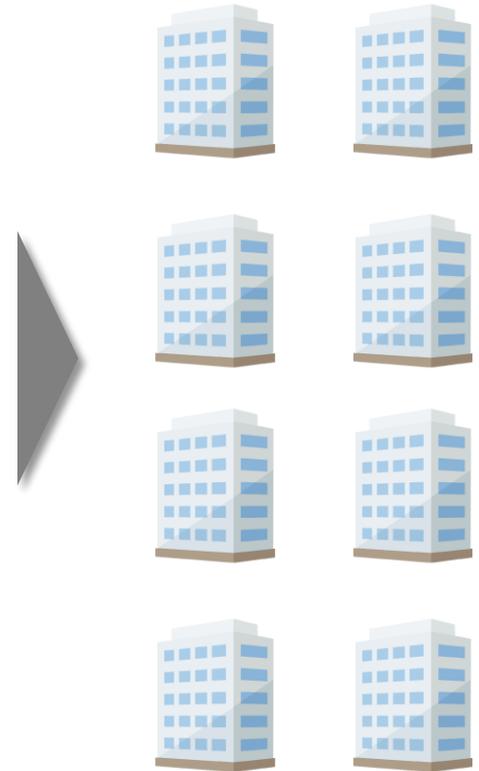
The screenshot displays a trading interface with an order book and trade history. The order book shows 'BTC/JPY' with a bid price of 127,610.4 and an ask price of 127,610.4. The trade history shows several transactions with columns for '時間' (Time), '価格' (Price), '数量' (Quantity), and '種類' (Type). The interface includes a search bar and various filters.

フィスコシステムトレード画面

The screenshot shows a 'SHOPPING GUIDE' page for Bitcoin payments. It includes sections for '配送料' (Shipping Fee), 'お支払い方法' (Payment Methods), and '配送について' (About Delivery). The 'お支払い方法' section lists VISA, Mastercard, and Bitcoin. The '配送について' section explains the shipping process and provides a timeline for delivery.

ビットコイン決済画面

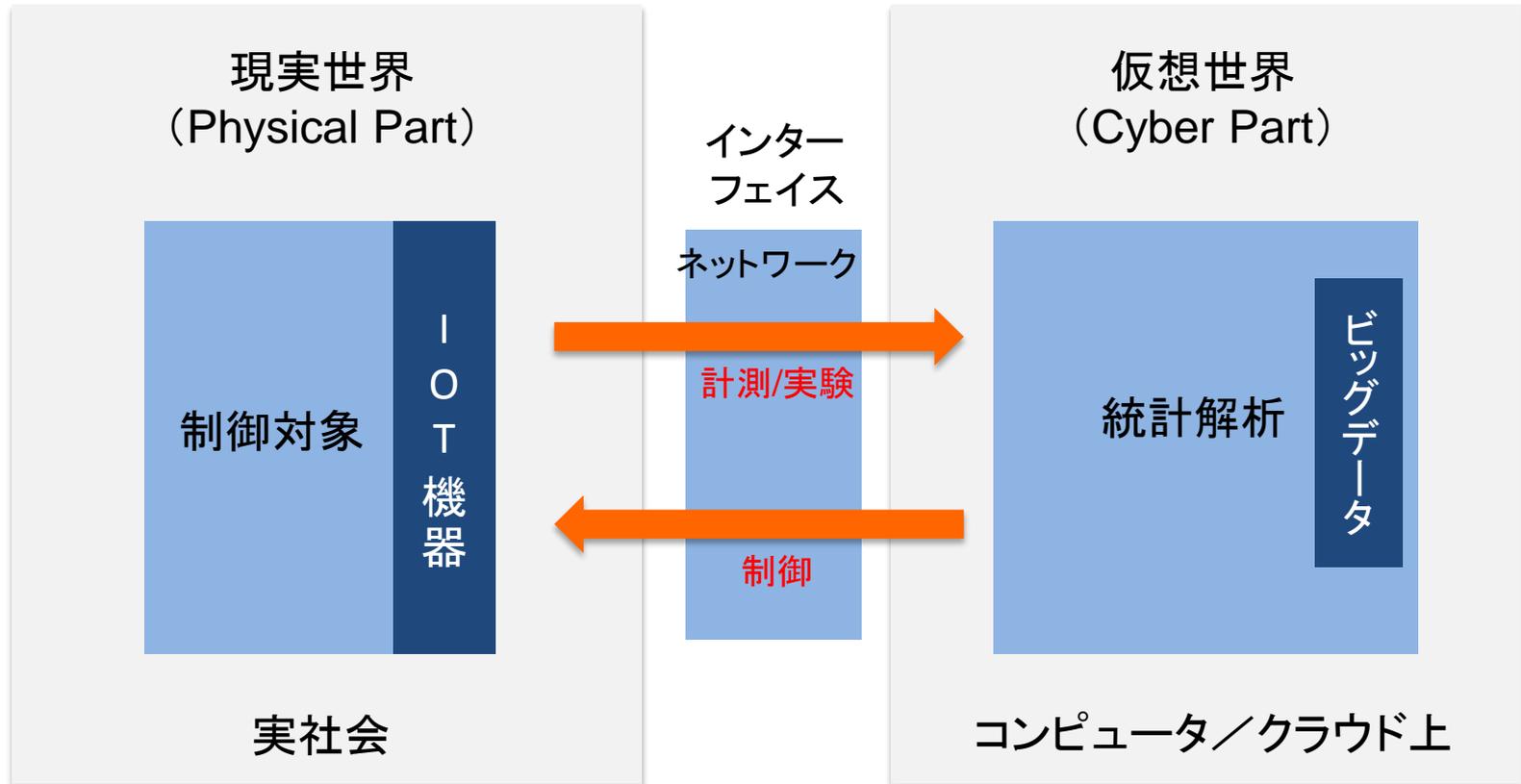
インテグレーションの市場展開



第4次産業革命の到来 - Cyber-Physical Systemの実現

現実世界の制御対象のさまざまな状態を数値化し、仮想世界において定量的に分析することで新しい知見を引き出し、さらに現実世界へフィードバック及び制御する

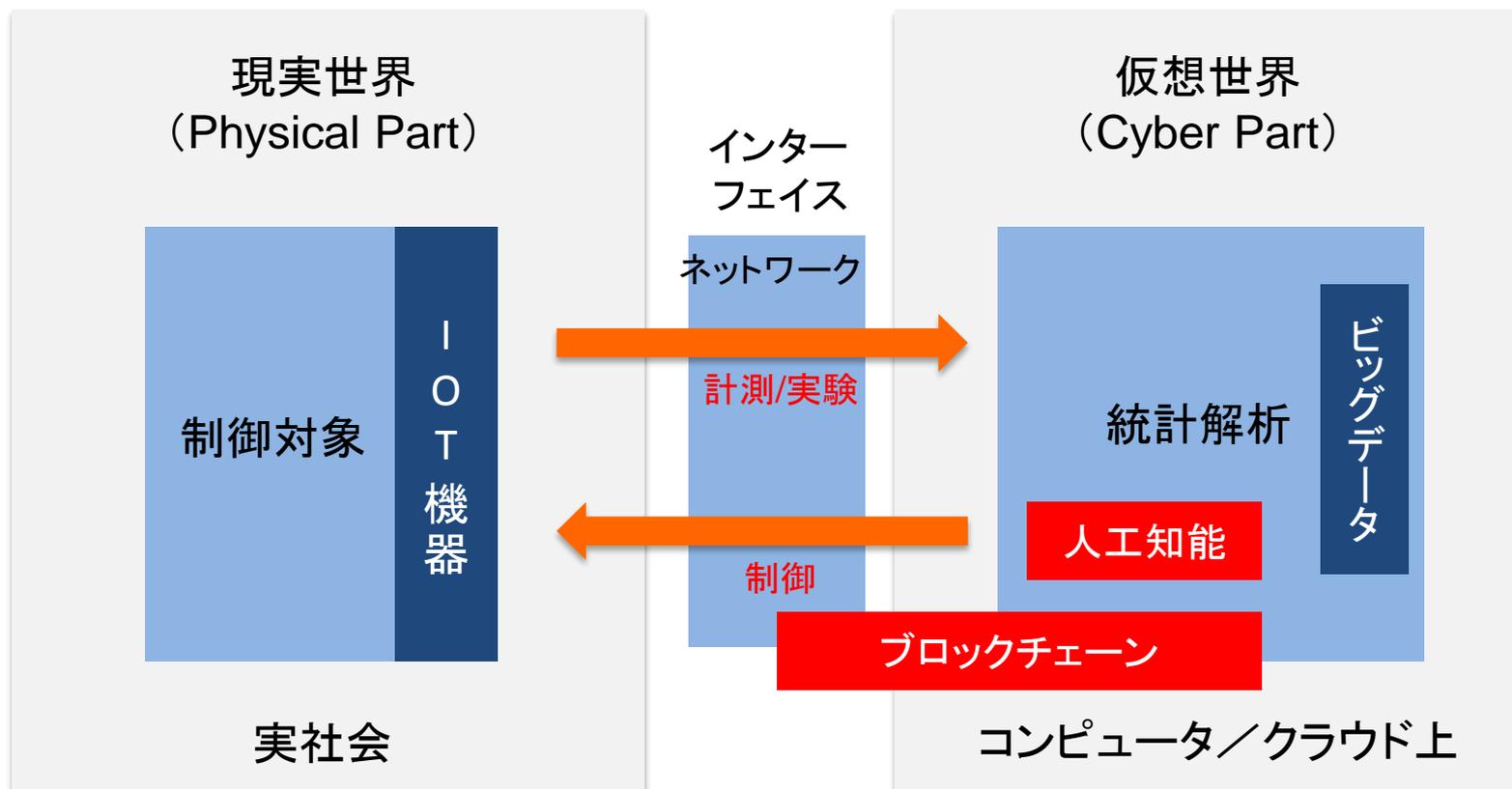
Cyber-Physical System (CPS概念図)



Cyber-Physical Systemにおけるブロックチェーンや人工知能の役割

Cyber-Physical Systemにおいてブロックチェーンは确实で安心な分散型データベースを提供し、また人工知能もセンサーをトリガーとした自動的なアクションや取引を可能にする

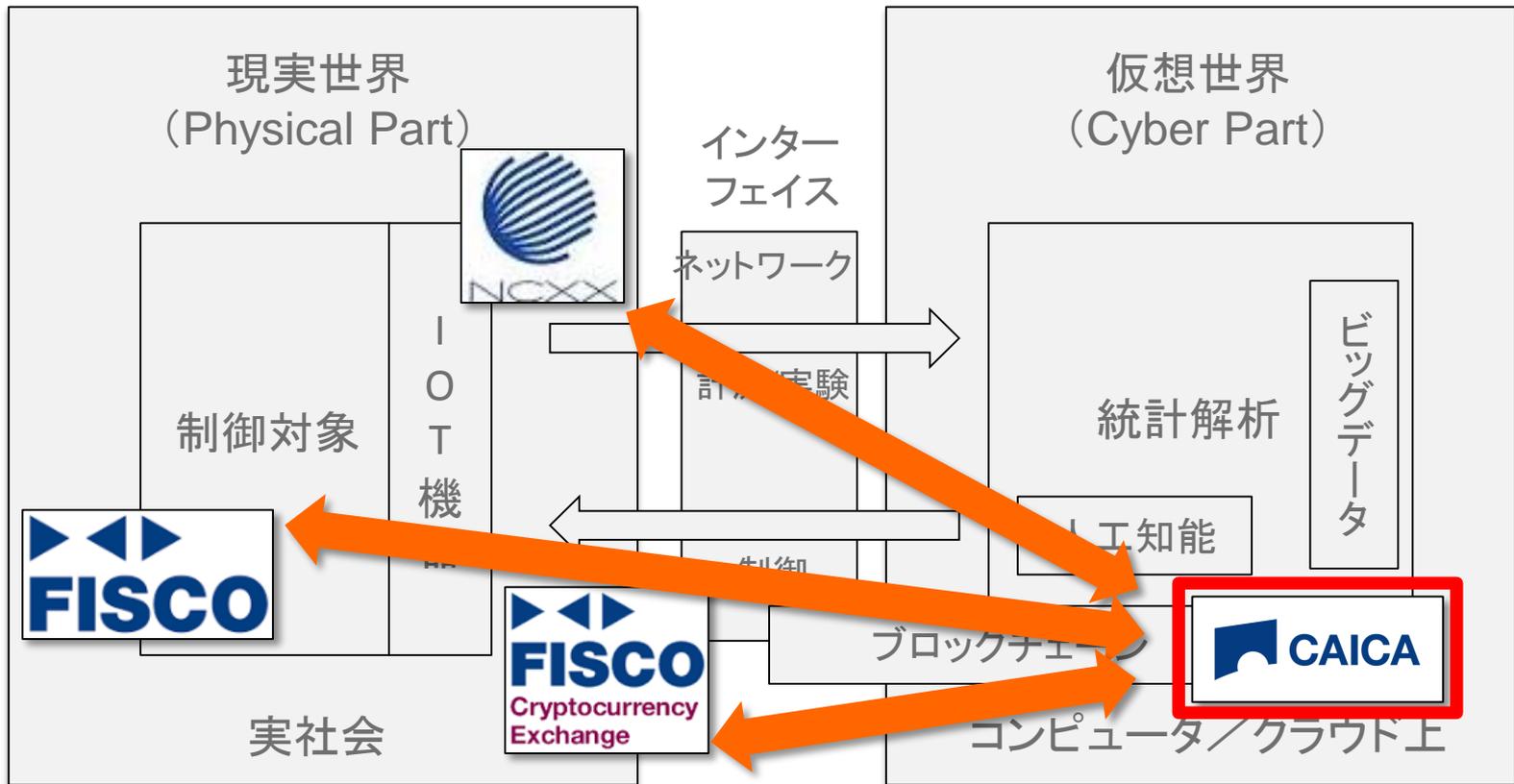
Cyber-Physical System (CPS概念図)



フィスコグループ連携

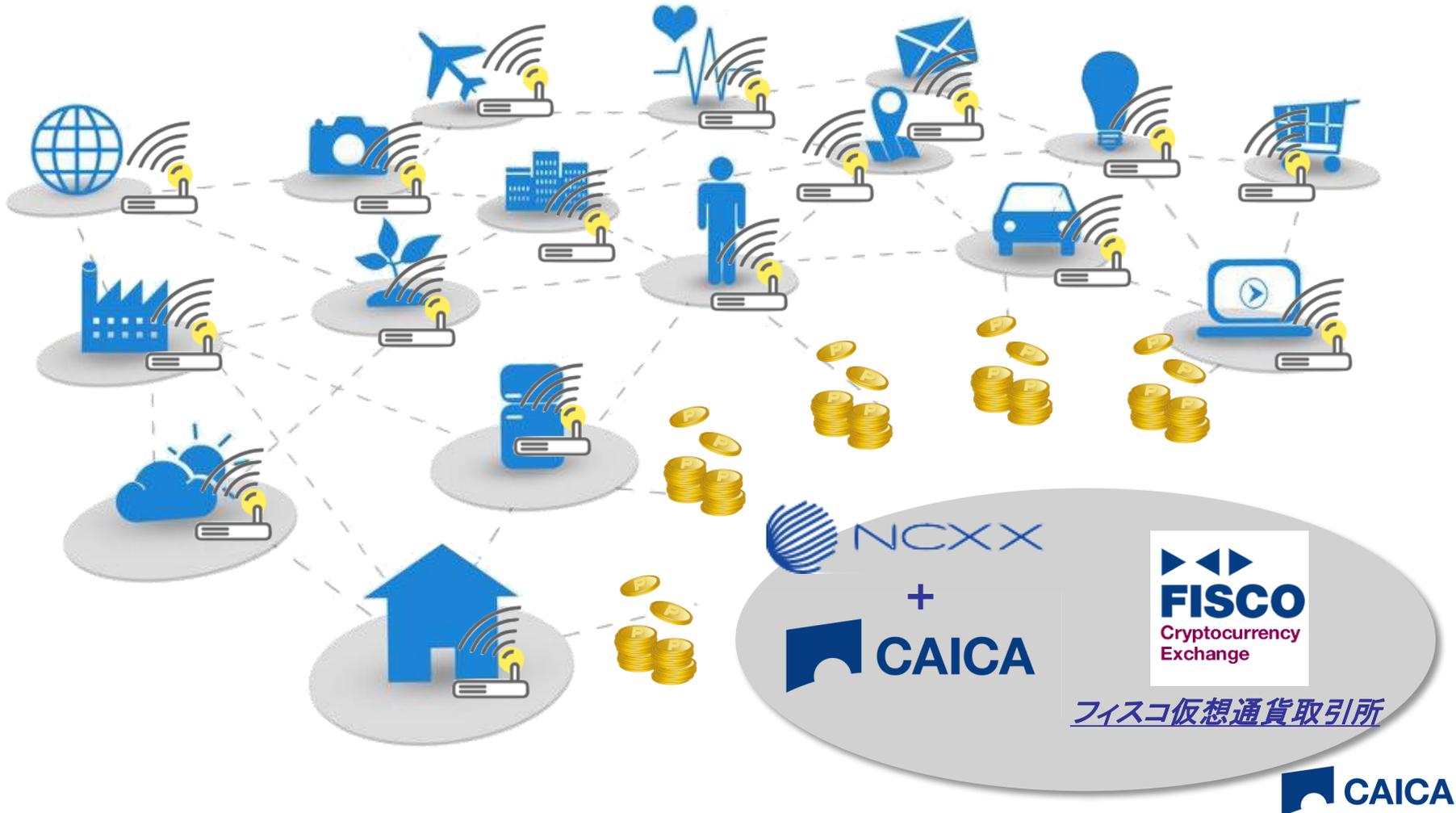
フィスコグループが実現するCyber-Physical Systemにおいて、CAICAは人工知能、ブロックチェーン技術をインテグレーションサービスに適用して事業推進

Cyber-Physical System (CPS概念図)



グループ連携の例 - IoT決済プラットフォーム

フィスコグループとの連携によって、仮想通貨やトークンを用いたIoT決済プラットフォーム構築のインテグレーションサービスを展開する



フィンテック関連の案件受注構造(中長期)

フィンテック関連のインテグレーターとしてトップランナーのポジションを築き、大規模に市場展開を行う

